

じゅこう

第80号
(通算420号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室
・12月17日(水)
10時～11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室
・12月23日(火)
19時～20時半
・参加費1000円

浄覚寺ピアノ教室
・12月(金曜日)
5、12、19日

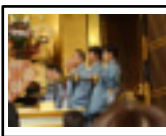
十一月十一日から十六日まで本願寺津村別院で報恩講法要、並びに「親鸞聖人御誕生850年、立教開宗800年慶讃法要」がおつとまりになりました。親鸞聖人の慶讃法要も兼ねてますので、法要やご法話は当然のことですが、落語やコンサートなどの記念行事も盛大に行われました。住職も法要での結衆(念仏頭)や奏楽員で出仕をさせていただきました、貴重な経験をさせていただきました。

さて、最終日のご満座はご門主さまが御出座されての報恩講法要でした。『報恩講私記・嘆徳文』をご拝読いただき、その後にご親教(ご法話)がありました。その中で津村別院ができるまでの歴史をお話しくださしました。浄土真宗の本山である本願寺は今では京都にありますが、実は転々としています。第八世蓮如上人の時代には近江(滋賀県)や吉崎(福井県)を経て京都の山科が本願寺でした。蓮如上人はご子息の実如上人に本願寺を委譲した後の隠居所として大坂石山(今の石山)の場所(大坂御坊)に大坂御坊を建立されます。ところが法華一揆により山科本願寺が焼失し、本願寺は大坂石山に移ることとなります。ただ、それも長くは続きません。織田信長との約十年

本願寺津村別院 報恩講法要

にわたる石山合戦があり、結果和睦し石山本願寺の場所が明け渡すことになりました。それから紀伊鷺森、和泉貝塚、大坂天満を経て一五九一年に本願寺は現在の京都堀川の地に移転します。その後、残された大坂の門徒たちによつて天満の近くに集会所ができ、それが津村別院の始まりとされているそうです。一五九七年に現在の町、津村の地に移転し、空襲による焼失もありながら、今に続いているとのことでした。

本堂に長い時間、そしてたくさんの方の想いのご苦労があったお陰で、私にみ教えが伝わってきたこと、同朋が集い、拠り処となる場所があることに感謝するご法要となりましたとお伝えくださいました。



如来の大悲に生かされて

御恩報謝のよろこびに

南無阿弥陀仏を称えつつ

真実の道を歩みます

『浄土真宗の救いようこび』



御文章に聞く(第73回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

当流聖人章(五帖第十八通)
 当流聖人の・すすめまします安心といは、なにのようもなく・まず、わが身のあさましき罪のふかきことをばうちすて、もろもろの難行難修のころをさしおきて、一心に阿弥陀如来後生たすけたまへと・一念にふかくたのみたてまつらんものをば、たとえば・十人は十人・百人は百人ながら・みなもらずたすけたまうべし、これさらに・疑うべからざるものなり、かようによくころえたる人を・信心の行者というなり、さてこのうえには・なおわが身の後生のたすからんことの・うれしさをおもいださんときは、ねてもさめとも・南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏と・となうべきものなり、あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。
 中国の善導大師は、「雑行」に対する言葉である「正行」を、読誦正行、観察正行、礼拝正行、称名正行、讃嘆供養正行の五種に開かれました。それは阿弥陀仏に關わる經典『浄土三部經』を読誦し、阿弥陀仏とその浄土を觀察(心に想いかべ)し、阿弥陀仏を礼拝し、阿弥陀仏のみ名を称え、阿弥陀仏を讃嘆し、供養したてまつること。それが阿弥陀仏の浄土を願う者の正行であると明らかにされたのです。それに対して「雑行」とは、阿弥陀仏の浄土を願う者が、阿弥陀仏以外の、例えば薬師如来や不動明王に關する經典を読み、そのみ名を称え、それらの仏さまを讃嘆し、供養して阿弥陀仏の浄土への往生を願っても、その行為自体は悪いことではありませんが、阿弥陀仏の浄土に対しては、正當とはいえず、善導大師はこの「雑行」を修することを「雑修」といわれたのです。

仏教語辞典



誰かをさとらせたり、自分のうちにある仏性を開くことをいう。それは、自己中心的な視点から一歩外へ出たことともいえる。現在では「かいほつ」と読むようになり、豊かな生活を得るために常に開発が行われている。しかし、それで豊かになったかといえば一概にはいえず、争いは消えず、弱虫や格差は相変わらず生み出されている。そろそろ「かいほつ」の精神を

開発

『気になる仏教語辞典』
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。
 先日、山口県萩市にある親戚のお寺で本堂・山門が修復された落成慶讃法要に出仕してきました。二百十七年ぶりの大改修とのことで、足掛け三年という大工事を経て、見違えるような伽藍が完成しておりました。法要後の式典では、住職をはじめ寺族が前に並び、厳しいご時世の中、多大なる御懇念を賜り有難うございました、とのご挨拶がありました。それに対してご総代からの返礼があり、私たちの寺のために、気苦労をお掛けしました。本当に有難うございました、と皆そろって頭を下げておられました。ご法義に篤い、嬉しい雰囲気でした。(釋法道)

取り入れる必要があるのかもしれない。
 浄覚寺の公式LINEにぜひ登録ください。
 デジタル「じゅこう」をお届けします。



1月

・令和八年一月一日(祝) 十四時より
 元旦会 法話 寺西覚水 先生
 ・令和八年一月十一日(日) 十四時より
 浄覚寺仏教婦人会 総会(会員のみ)

日時・十二月二十一日(日)
 午前十時～午後四時
 行事・浄覚寺こども会冬のついで
 場所・長原浄覚寺 詳細は別紙にて
 (なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

行事案内

